



東風

○月○日

『明るく伸びる子』

○考える子 ○助け合う子 ○やりぬく子
○じょうぶな子

【重点目標】

認め合い 支え合い 高め合う 東小の子

令和2年8月31日発行 第6号

9月

一番大切なのは『還る家』をもつこと

岩内東小学校長 齊藤 信之

2学期がスタートして2週間ほど過ぎました。1学期での様々なストレスを発散し、心のエネルギーを十分に満たして新たなスタートをと願っていましたが、実際はどうだったのでしょうか。表面的には元気に見えても、内面に抱えるものがあるという子もいるのではないのでしょうか。学校でもご家庭でも、引き続き子どもに寄り添い、注意深く見ていきましょう。

厳しい残暑が続く中、子どもたちは汗を流しながらも、マスクをして登校してきます。いろいろな思いを押し殺して現実を受け入れ、前向きに歩み続ける子どもたちの姿は健気そのもので、何としても全力で支え、応援してあげたいとの思いがあふれます。

幼稚園のPTA大会での教育心理カウンセラーのご講演を紹介します。

私の経験から言うと、「いい子」はどこかで「報われなさ」を持っていたりします。成績がよくておとなしくて、弱音や愚痴を言わない「いい子」ほど、見た目は何の問題もないように見えます。でも、そういう子にも憂いがあったりするのです。そして思いがけない納得しがたい出来事をきっかけに、励ますつもりでの親の言葉にカッとして「うるせえんだよ！」と親に反抗したりするんです。親は、その豹変ぶりに慌ててしまうわけですが、実は成人になって起こる「遅すぎる思春期問題」はいい子ほどあるんです。

どんなに問題を起こす子でも、「親を困らせよう」とか「先生に迷惑をかけてやろう」とか、そんなつもりで生まれた子は一人もいません。親や先生にも、「悪い子に育てよう」と思って育てている人は一人もいません。みんな「よい子に」と願いながら子育てしているんです。それなのに、なぜ悲しい事件や事故は繰り返されるのでしょうか。一言で言うと、それは「還る（かえる）家を見失った」ということだと私は思っています。

にっちもさっちもどうにもできないことを誰かに相談できればまだいいのです。誰にも言えなかったり、苦しみや悲しみをそのまま背負わなきゃならないときもあります。悩みは「言うとお親や先生を悲しませてしまう」と思うから言えないのです。ましてや、自分の一番身近で大切な人ならばなおさらです。そんな時に必要なのが「還る家です。幼い時、どうすることもできなくて助けを求めた時、「大丈夫だよ。それでいいんだよ」と無条件で抱きしめてもらえた実感、受け入れられた実感、そのことを私は「還る家」と呼んでいます。

つらいときでも黙って受け入れてくれた。ずっと自分を信じ続けてくれた。その場面や風景を、まるで映画の一場面のように思い出せる「還る家」を子どもたちにしっかりと作ってあげようではありませんか。自己否定にさまよい、喪失感から悲しい事件や事故を起こしてしまわぬよう、抱きしめてもらった「原風景」を子どもたちにしっかりと植え付けましょう。